

女のことば、女のちから

「女は」のあとに続くのが、ネガティブな言葉であってほしくない。こうありたいと願うこと。自分らしく生きること。女性であることの誇りも楽しさも、煩わしさも心もとなささも含めて、肯定する、解放する、応援する言葉。

翼を持たずに生まれてきたのなら

高野てるみ

言葉には、真実もあれば、嘘もある。

人を勇気づけることもあれば、人を絶望もさせる。諸刃の剣です。使い方一つで、自分の味方にも敵にもなる。薬にも、毒にもなってしまう。

今に残された言葉は、その人の生きた証であり、生き様です。生き方が魅力的な人の言葉には必然的に惹かれてしまいます。何気ない言葉であっても、魅力的な魔法の言葉になり得るの

ないというしなやかな気骨の持ち主でした。さらには、人を怒らさない、うらやまない、くじけないという精神を貫きました。少女の頃から親と離別、修道院で暮らし、ブルジョワの子息の愛人として社交界に入り、デザイナーとして、次々と成功させる中、二度の世界大戦、愛する人との死別など、人並み外れた逆境や苦難に遭います。が、そのたび、経験を生かした知恵と強い精神力を全開させ、乗り越えます。そして、その苦労などみじんも感じさせないエレガントさを自らのスタイルとして、カリスマ性を極めていったのです。

決して天才ではなく、激動の時代を先取りする達人でした。その才能も、生きている限り磨き続ける努力あつてのものでした。

有名な言葉、「翼を持たずに生まれてきたのなら、翼を生やすためにどんなことでもしな

です。むしろ、多くは自らに魔法をかけるための言葉だったのかもしれない。

20世紀を代表する世界的なファッション・デザイナー、ココ・シャネル。亡くなる87歳まで仕事を続けた彼女の生き方は圧倒的で、多くの言葉を残しています。ファッション改革のみならず、女性の生き方までも変えたことで、伝説的存在です。

凛として、媚びない、おもねらない、妥協し

い」から、そのことがよくわかります。

女性の持つ力を誰よりも全開させて、夢や希望に挑戦した自分を語る言葉であり、自らを励ましていた言葉でもあるでしょう。そこから汲み取れることは、私たちの誰もが、ココ・シャネルのようになれる可能性があるという事実。彼女は偉業を讃えられると、「私がやってきたことは、みんな子供のよう無邪気さでやったことなの」と言います。これこそ、「少女」の持つ力。私はこれを「少女魂」と言っています。もつと言えば、「シャネル魂」。女性なら誰もが持っているはずの力なのだ。この力を眠らせてはいけません。いつも可能性と、夢を忘れず、無邪気に挑戦。いくつになっても、シャネルのようにこの力を磨くことを忘れずに。私も心がけています。

さて、あなたなら、どんな翼を生やしたいでしょう？

たかのてるみ＊映画プロデューサー、シネマ・エッセイスト、巴里映画代表取締役。文京学院大学非常勤講師。著書に「ココ・シャネル 女を磨く言葉」「ブリジット・バルドー-女を極める600の言葉」(以上、PHP文庫)、[恋愛合格! 太宰治の恋ハ66] (マガジンハウス)などがある。最新刊は3月初旬発売の「ココ・シャネル 凛として生きる言葉」(PHP文庫)。